

第 1033 回 例 会

7年10月20日

本日のプログラム

- ・ソング 「手に手つないで」
- ・卓話 クラブフォーラム
 - 国際奉仕委員会 北川 理沙 委員長
 - 職業奉仕委員会 小山田 光正 委員長
 - 会報広報委員会 大橋 高志 委員長
- ・場所 リーガロイヤルホテル 2階「蔦の間」

次回(10月27日)のプログラム

- ウエルカム例会 (RAC合同例会)
- 時間 18:30 ~ 20:30
- 場所 リーガロイヤルホテル 2階「ダイヤモンドルーム」

先週(10月6日)の例会報告

■会長の時間

10月は「地域社会の経済発展月間」です。ロータリーの活動理念の一つである「地域社会との連携」は、まさに今月のテーマに深く関わっています。ロータリー会員一人ひとりが地域でどのように行動し、どのように地域に価値をもたらしているのか。その実践こそが、私たちロータリアンとしての存在意義を最もよく表すものではないでしょうか。私たちの地区には、地域で活躍する企業の経営者・従業員として日々努力しておられる会員が数多くいらっしゃいます。これらの会員企業が、地域の雇用を支え、経済の活力を生み出していることに、あらためて敬意を表したいと思います。そして同時に、地域のボランティア活動や教育・福祉などの現場においても、会員が主体的に関わっている姿を多く見かけます。まさにロータリアンの「職業奉仕」と「社会奉仕」が、現実の地域の中でしっかりと根付いていることを実感します。また昨年度から本年度にかけて、当地区では「2025年大阪・関西万博」に関連した取り組みを積極的に行ってきました。特に、開幕祭や各組IM1～6で開催された「エキスポフェスタ」に加え、第2660地区として8月の「平和と人権ウィーク」に参加し、青少年による提言「アジェンダ2025～平和構築と人権擁護～」などを開催しました。ロータリーとして、テーマウィークにおいて世界と対話する場を提供できたことは、たいへん意義深いものでしたが、この中でも平和構築や人権擁護のためには、雇用の維持や地域自立型の産業の創造など、地域社会の経済発展が必要との視点に立った報告や提言がなされました。例会における日々の交流、クラブを超えたイベントでの連携、そして万博という国際的な舞台での発信。こうしたすべての活動が、RI テーマ「よいことのために手を取りあおう(Unite for Good)」を体現しているように思います。地域社会の発展とは、インフラ整備や経済指標だけで語られるものではなく、人と人との信頼、支え合い、そして志の共有によって築かれるものです。ロータリーには、その中心的な役割を担う力があります。ロータリーとしてできること、そして関われることは、想像以上に大きいのです。今後も「地域の一員として、地域とともにあるロータリー」であることを胸に、皆さまとともに活動を続けてまいりたいと思います。

【来客紹介】 1名

【出席報告】

7年10月6日(第0回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
42名	0名	27名	15名	64.29%

【幹事報告】

- 〔メールBOXに配布〕 1)ロータリーの友(10月号) 2)「米山豆辞典」と「特別寄付のお願い」
- 〔メール送信〕 1)ガバナー月信10月号 2)ロータリーの友10月号 推奨記事と関連記事のご紹介
- 〔回覧資料〕 1)世界ポリオデー募金箱 2)出欠回覧表 2件(ロータリーXmas・西南RC歓迎親睦ゴルフ)

ニコニコ箱(10月6日)

- 遠藤 政伸 =雨の中、土曜日のバザー、おつかれ様でした。
- 井上 匡 =雨の中、福島区民まつり・バザー、お疲れ様でした。
- 北條 陽子 =先日はバザーおつかれさまでした。雨の中、足もと悪かったですが、お客様たくさん来ていただいて良かったです。FC大阪 近藤さん、卓話 よろしくお願ひします。
- 小林 知義 =土曜日、小雨の中、バザーに参加されたみなさん、お疲れ様でした。
- 久保田秀一 =無事、予選通過してほっとしています。
- 松浦 光宏 =RC大阪 近藤社長のお話し、楽しみです。
- 松山 三雄 =バザー 売れました。
- 三宅 一郎 =第29代自民党総裁に高市早苗氏が決まりました。これからの日本に期待したいです。
- 中井 周治 =土曜日のバザーに参加された会員の皆さん、雨の中 お疲れ様でした。

大野 裕司 =バッジ忘れました。 前々日のバザー、雨の中 初参加でしたが、皆様、お疲れ様でした。

佐田 幸夫 =福島区民まつり・バザー、お疲れ様でした。

斎藤 清貴 =バザー、ご苦労様でした。 10月も宜しくお願いします。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 19000円	今年度合計 169431円
---------	-------	------------	---------------

卓話(10月6日)

「健康について」 ゲストスピーカー 近藤 祐輔 氏 (北條 陽子 会員 ご紹介)

1. サッカーと経済

- ・世界・国内サッカーマーケット: サッカーが世界最大規模の国際機関(FIFA加盟国211)であり、国内でも団体競技として参加人口が最多(約309万人)であること。
- ・サッカーの経済貢献: プロサッカークラブが人件費などの観点から大きな経済波及効果をもたらすことが期待される。
- ・経済効果事例: *FC今治(年間売上高9.17億円、定住人口換算575人の経済効果)
 - *松本山雅(2018年に約64億5000万円の経済波及効果を創出)
 - *鹿島アントラーズ(年間35万人来場、地域経済効果260億円、定住人口換算4,375人の経済効果)
- *これらの事例から、地域とクラブが一体となることで大きな経済波及効果を創出していることを示しています。

2. FC大阪について

- ・クラブヒストリー: 1996年創設からJFL、そして2023年の明治安田生命J3リーグ参入までの歩み。
- ・FC大阪の役割: 地域社会をつなぐ**結節点(ハブ)**となり、スポーツの力を活用して、地域価値の共創、社会課題の解決、企業価値の創造に取り組む。

3. クラブミッションと社会課題解決への取り組み

- ・クラブミッション: 「大阪を世界へ」「社会課題解決への取り組み」「地域力向上に向けて」
- ・社会課題解決への取り組み:
 - * 持続可能なまちづくり/共通価値の創造: 子どもの貧困解決(FC大阪こども基金)、多世代交流、健康寿命の延伸、次世代教育、防災・復興支援など。
 - * ダイバーシティ推進本部: 国籍や性別、障がい等に関わらず、誰も取り残さない社会づくりへの貢献を目指し、アート作品の展示、LGBTQ+普及活動などを実施。
 - * 脱炭素社会を目指す(メインテーマ):
 - ・プロスポーツクラブとしてCO2排出量の可視化と削減に取り組み、SME版SBT認定を取得(2022年10月13日)。
 - ・カーボンニュートラル アクション・プランとして、公共交通機関の利用促進、デジタルチケット利用促進、リサイクル燃料の利用、サステナビリティ配慮製品の導入などを掲げている。
 - ・サステナビリティプロジェクト「ACT NOW」: 2030年にCO2排出量50%カット、2040年にネットゼロ(実質ゼロ)を目指し、廃食油の回収、スタジアムエコ循環、電力の再エネ化・地産地消など、多様なステークホルダーと協働で地域波及を目指す。
 - ・脱炭素経営の地域波及: 公民連携のプラットフォーム(OZCaF)を設立し、ゼロカーボン・スマートシティを促進。
- ・地域力向上に向けて:
 - * サッカーによる地方創生(地域のブランド構成、経済波及効果、スポーツ文化の発展)。
 - * FC大阪が**地域のプラットフォーム(HUB)**となり、自治体、住民、企業などを繋ぎ、共通価値の創造を目指す。
 - * 「東大阪まちごとスタジアム構想」: 街全体をスタジアムに見立てて地域活性化を実現する構想を、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して推進。

【まとめ】

FC大阪は、サッカークラブを地域の「結節点(HUB)」とし、経済効果を生み出すとともに、ダイバーシティ推進や特に脱炭素社会の実現といった社会課題の解決に積極的に取り組み、行政・企業・地域社会と一体となった魅力的なまちづくりを目指しています。

大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mai: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日

事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459

会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか